

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことと，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第1問と同じ。

第2問 学習指導要領日本史探究1目標(2)「我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力」を十分に身に付けているかどうかを問うべく，「日本の漁業の歴史」をテーマとして取り上げ，その歴史を当時の社会的・経済的背景と関連付けて考えさせることをねらって通史的に設問を作成した。ほぼ全ての小問において極端な正答率はおらず，正答率・識別力において妥当だった。問2については，正答率が8割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

第3問 学習指導要領日本史探究2内容A「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。古代の国家や社会の展開について，主題を設定し，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察させるべく，古代の政治をテーマとし，高等学校で学習した知識を踏まえた上で，思考力・判断力・表現力等を問うたり，諸事象を関連付ける能力を問うたりするような設問とした。全ての小問において極端な正答率はおらず，正答率・識別力において妥当だった。

第4問 学習指導要領日本史探究2内容B(2)ア(ア)「中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること」及び(1)イ(イ)「時代の転換に着目して，中世の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現すること」を踏まえ，中世の女性と政治の関係を主題に設定して，文字資料を活用して思考させる設問を作成した。ほぼ全ての小問において極端な正答率はおらず，正答率・識別力において妥当だった。問1については，正答率が8割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

第5問 学習指導要領日本史探究2内容C「近世の日本と世界」のうち(1)ア(ア)「織豊政権の政治・経済政策，貿易や対外関係などを基に，中世から近世への時代の転換を理解すること」及びイ(イ)「村落や都市の支配の変化，アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して，中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること」，(2)ア(ア)「近

世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること」などを踏まえ、近世の城郭を主題として、(3)ア(ア)のうち「法や制度による支配秩序の形成と身分制」「技術の向上と開発の進展」「学問・文化の発展」などを中心に、近世の政治・社会・文化の全般、及び中世から近世への変化、時代を通観した視点に関する内容的・概念的な理解を問うとともに、関連する資料を基に、情報を読み取る能力を問うことをねらいとした。全ての小問において極端な正答率は出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。

第6問 学習指導要領日本史探究2内容D「近現代の地域・日本と世界」(2)ア(ア)「近代の特色を示す適切な歴史資料」から「歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける」及びイ(ア)「資料から読み取れる情報から、近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する」を意図し、新聞に掲載された風刺画や日記資料の歴史的な読み解きを求めた。また、(3)「近現代の地域・日本と世界の画期と構造」から、政治的トップリーダーの役割を主題として、近現代の政治制度・政治過程・政策、関連する国内・国際環境、及び時代を通観する概念的な理解を問うた。3内容の取扱い(2)ウ「多面的・多角的に考察できるよう、資料を活用する技能を高める指導を工夫すること」を踏まえて、資料活用の技能を測ることをねらいとした作問を行った。全ての小問において極端な正答率は出ておらず、正答率・識別力において妥当だった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

出題のねらいについては、「歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、多面的・多角的な視点で考察するねらいが明確であった。各設問からは、知識に偏ることなく、諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた」との評価をいただいた。問題文の表現については、「極端に難解なものではなく、資料が現代語訳や書き下し文に変更されるなどの配慮がなされ、注釈もバランスよく付されており、平均点を高める一因となったと思われる。人名や事件名、制度の名称など、歴史用語をなるべく使用せずに、深い理解を伴った知識を問うような表現上の工夫がなされていた。」との評価をいただいた。

総括的な評価としても、「学習指導要領の趣旨を踏まえ、『知識及び技能』、『思考力・判断力・表現力等』の観点を十分に発揮させて解答する良問が多く、受験者にとって解答しやすい問題であった」との評価をいただいた。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。一方、「出題形式として、様々な学習場面を取り入れることは、高等学校の授業改善に大いに示唆を与えるものであり、今後も期待しているが、形式が先立ち、受験者に求める資質・能力が後追いにならないような工夫をお願いしたい」や「文章表現や資料の情報量を精査して、受験者が時間的な余裕をもって、解答できる出題上の工夫をお願いしたい」、また「個別の事実等に関する知識の出題に関しては、些末なものではなく、概念的な理解に必要な基本的なものを問うようをお願いしたい」との指摘もいただき、より一層、多様な受験者が十分に力を発揮し、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題となるよう、表現や構成等に配慮していきたい。

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第1問と同じ。

第2問 問1は、近世の漁業について、個別の知識のみならず、背景・原因・結果・影響等を含め、内容的に理解できているかを問うた。「江戸時代の産業や流通などに関する基本的な理解が求められた」と評価された。問2は、近世の漁業の仕組みについて、問題中で提示した情報から考察に必要な情報を読み取ることができているか、また、目的に応じて読み取った情報を概念化して図示できるかを問うた。「情報を正確に読み取る技能が求められた」と評価された。問3は、黎明期の文化や社会について、問題中で提示した情報を的確に読み取ることができているか、また、その情報を原始の漁業に関する技術の展開と関連付けて理解できているかを問う

た。「図やノートから情報を読み取り、縄文時代の生活に関する知識と結び付けて、思考・判断する力が求められた」と評価された。問4は、弓削島荘の漁業に関する資料から、荘園制の動揺について、個別の知識のみならず、背景・原因・結果・影響等を含め、内容的に理解できているか、また、目的に応じて読み取った情報をまとめることができているかを問うた。「荘園から納められる年貢と産業のありようを関連させて、当該期の歴史像を捉えさせる良問であった」と評価された。問5は、問題中で提示した情報を正確に理解し、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について、内容的に理解できているかどうか、また近世の漁業について商品流通との関係に着目して特徴を捉えることができているかを問うた。「縄文時代の自然環境に関する知識と大問全体から漁業の現場における階層性を読み取り、思考・判断する力が求められた」と評価された。今後も、多様な資料を駆使して、思考力・判断力・表現力等をより適切に評価できるような問題の作成に努めたい。

第3問 問1は、絵画や表の読み解きから勘解由使や検非違使の職務を理解した上で、絵画の解釈ができるかを問うた。「資料を根拠に仮説を立てる学習を意識した出題であり、会話文の内容と図・表の情報を基に、語句の妥当性を検証する思考力・判断力・表現力等が求められた」と評価された。問2は、藤原氏の勢力拡大や、その実態について理解できているかを問うた。「藤原氏の人物の説明については、あえて歴史用語を用いずに枝文が作られており、内容理解を問う良問である」と評価された。問3は、古代の画期について根拠を示して表現できるか、また政治的事件の意義、個々の歴史的事象の知識を通して得られた概念を理解できているかを問うた。『歴史総合、日本史探究』で初めて出題された連動型の設問であり、「この設問においても歴史用語を伏せたかたちで選択肢が用意されているので、単なる用語暗記では対応できない、知識・理解を問う良問であった」と評価された。問4は、伴大納言絵巻の成立や、応天門の変に関係する人物について、関連する資料の読み解きを通して理解できているかを問うた。「原文を読解した上で、資料の立場性を踏まえて思考・判断することを求めた姿勢は興味深く、良問である」と評価された。問5は、文字資料と絵画資料との関係や、それを利用して歴史を考察することについて理解できているかを問うた。「古事記・日本書紀が編纂された背景から似絵の文化的特色まで幅広い年代の文化と社会の関わりについての知識が求められた」と評価された。今後も、新たな出題形式を模索しつつ、多様な資料を適切に活用した問題の作成に努めたい。

第4問 問1は、時代の異なる二つの資料を提示して、共通する特徴を読み取ることができているか、また、資料と関連する歴史的事象を把握することができているかを問うた。「鎌倉時代の基本的な知識と資料から情報を読み取り思考・判断する力が求められた。」と評価された。問2は、歴史上の人物の評価が変わっていることを、資料から読み取れているか、また、資料が書かれた時代的背景を認識できているかを問うた。「資料から読み取る技能と室町期の戦乱に関する知識が求められた」と評価された。問3は、八条院に関するノートから生徒の対立する意見の根拠を読み取らせ、中世の女性の政治力について歴史的背景を踏まえて思考する力を問うた。「空欄の前後の文脈からどのような主張に基づいた考察であるかを読み取り、それを踏まえて解答することが求められた」と評価された。問4は、八条院に関するノートから女院の人生と歴史的役割を理解し、関連する歴史的事項としての院政の在り方や荘園制の進展について問うた。「院政期の荘園についての正確な知識が求められた」こともあり、正答率が伸びなかったと評価された。問5は、ノートの情報及び歴史的事象に関わる知識を通じて、隣接する時代の思想や社会の在り方の理解を問うた。「資料から正確に情報を読み取る技能とその情報を知識と結び付けて思考・判断する力が求められた」と評価された。今後も、多様な資料を用い、識

別性のある問題を作成できるよう，努めていきたい。

第5問 問1は，近世の城郭が誕生する背景としての中世から近世へ移行する時期の政治・社会の変化に関する知識・理解を問うた。「村落・都市の支配の変化，ヨーロッパ諸国との交流の影響などを踏まえた概念的理解が求められた」との評価を受けた。問2は，桃山文化について問うた。文化史に関する出題であることから，選択肢については，「文字情報ではなく図版を活用することが望ましい」との評価を受けた。問3は，一国一城令に関連する資料を素材に，諸資料から考察，構想に必要な情報を読み取ることができているか，また，歴史的事象相互のつながりに着目し，その関連を捉えることができているかを問うた。「内容理解を踏まえて資料の立場性を考察させる良問である」との評価を受けた。問4は，近世城下町の内容図を素材に，考察・構想されたことについて問うた。「資料から正確に情報を読み取る技能とともに，その情報と近世の城下町に関わる概念的な理解を統合する思考力・判断力・表現力等が求められた」との評価を受けた。問5は，大問のまとめとして日本史上の城や館に関する知識・理解を問うた。「幅広い年代の城や館に関する基本的な知識が求められた」と評価を受けた。今後も，資料の読解のみならず，資料がどのような性格のものであるかを考えさせる設問を模索したい。

第6問 問1は，1990年代の政治外交，安全保障について問うた。「1990年代の政治と国際関係に関連付けた理解が求められた」と評価された。問2は，会話文の情報や知識を手掛かりに風刺漫画の内容を読み取ることができているか，高度経済成長期の出来事に関して理解できているかを問うた。「風刺画の示す内容を考察させる良問」と評価された。問3は，軍部の政治的影響力の拡大過程を理解できているかを問うた。「軍部をめぐる昭和前期の関係性の推移などの正しい知識が求められた」と評価された。問4は，原敬内閣期の政治・外交問題を理解できているかを問うた。「ノート中の疑問が何を指しているのかを読み取って，その文脈に合わせた知識を用いて思考・判断する力が求められた」と評価された。問5は，首相や内閣の運営に影響を与えたと考えられる組織や人物について近現代を通観して理解できているかを問うた。「選択肢も明治・大正・昭和戦前期・占領期に及び，通観という表現にふさわしい内容になっている」と評価された。今後も，多様な資料を適切に活用し，思考力・判断力・表現力等を適切に評価できるよう問題作成に努めたい。

4 まとめ

今年度の平均点は，62.29点であった。授業を通じて学んだ知識と初見資料から読み取れる情報とを併せて考察させる問題や，生徒自らが作った仮説を資料に基づき検証するような問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題など，前年度から引き続き，新課程の趣旨を踏まえた作問に努めた。会話文の中に未知の歴史事象を織り込み，多様な形態の資料など多くの情報量进行处理する出題形式を採用したが，文字資料をできる限り現代語訳して示すことによって，おおむね標準的な問題を作成できたものとする。来年度以降も，以下の諸点に留意しながら，受験者の学力を適切に評価できる問題作成を進めたい。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準に深く配慮をしながら，標準的な問題を作成する。
- (2) 学校現場での授業実践にも良いメッセージとなるような出題上の工夫をする。
- (3) 文字資料だけでなく，画像・地図・表など多様な資料を提示しながら，歴史事象に関する深い理解に至りうるような問題の作成に工夫を凝らす。
- (4) 授業や探究活動を通じて身に付けた資質・能力の到達度を明確に測れるような出題に努める。